

体験発表を通じ「ぎょさい」を再確認

～札幌市で「全国漁協交流集会」開く～



7月15日、札幌市で「平成14年度全国漁協交流集会」を開催しました。この集会には全国15道県の漁協関係者ら約70名が参加、「ぎょさい」加入先進地である北海道の推進状況などを見聞きし、「ぎょさい」加入の重要性について理解を深めました。

集会は、主催者挨拶と渡邊静次北海道共済組合長の歓迎挨拶に引き続き、漁済連が『新ぎょさい総加入運動21』の取り組み状況を報告、全ての漁業者の「ぎょさい」加入と加入推進に対する支援・協力を参加者に依頼しました。

続いて、渡邊道共済組合長が、別海漁業長として「ぎょさい」加入への取り組み状況などについて特別講演を行いました。渡邊組合長は、不漁や台風など万一の時の備えとして「ぎょさい」が重要と考え加入推進を展開してきた結果、サケ定置の大不漁などに際して多額の共済金の支払いを受け、大いに助かったことなどを説明の上、「漁業経営の後ろ盾として『ぎょさい』は不可欠。加入推進を図ることにより将来にわたって漁業と漁業経営を守っていこう」と参加者に呼びかけました。

引き続き、北島哲夫北海道漁連会長が「水産漁業とその課題」と題して講演し、わが国漁業を取り巻く情勢と世界に類を見ない制度である「ぎょさい」の重要性について語りました。北島会長は「日本の漁業は、漁業従事者の減少、輸入水産物による魚価の

低下など山積する問題と直面している。漁業者は一致団結して自国の食料生産を守らねばならない。そのためには安定した漁業経営の継続を図る必要があり、『ぎょさい』加入の促進について皆様方の支援をお願いしたい」と講演を締めくくり、参加者も改めて「ぎょさい」の重要性を再確認しました。